

検討会の設置の背景・目的及び検討事項

- 通訳案内士制度が創設され、60年以上が経過している中、訪日外国人旅行者の増加及びニーズの多様化に的確に対応できるよう、中長期的な視野から今後の制度のあり方を検討する。
- その際、まずは関係者の意見を幅広く聴取した上で、課題・論点を整理し、その上で改善策を議論する。

制度創設時(昭和20年代)

【社会環境】

- ・訪日外国人は6万人程度であり、受入体制も未整備。(日本人の外国語能力・外国人の存在を前提としないシステム)

【通訳案内士制度に期待されていた役割】

- ・安定的な対外関係を築くための我が国についての正しい理解向上
- ・社会的弱者である外国人の身体・財産の保護
- ・良質な通訳案内士の育成・確保

60年が経過

- 我が国経済・社会の国際化の進展
- テレビ、ガイドブック、ネットなどを通じた外国人の我が国の理解向上
- ボランティアガイドの増加
- 地域限定・特例ガイド制度の導入

現在

【社会環境】

- ・昨年には訪日外国人旅行者1000万人突破し、現在も大幅な増加基調
- ・2020年のオリ・パラを控え、2000万人の高みを目指すことが政府目標
- ・都市部・ゴールデンルートとそれ以外の地域の格差が拡大

【通訳案内士制度に期待される役割 (量の確保に加え、質の多様化)】

- ・英語以外の言語への対応
- ・より多様化したニーズへの対応
- ・サービス利用の容易化
- ・サービスの質・料金等の選択肢の充実

想定される論点・課題

- 資格制度の法的位置づけ …… 業務独占、資格区分、国と地方の役割 等
- 資格付与のあり方 …… 試験の出題方針、合格基準、免除科目、在外試験 等
- 資格付与後の品質確保方策 …… 一定期間毎の研修制度の導入の可否 等
- 資格取得者の利用促進方策 …… 旅行者への情報提供、旅行業者等の取組み